

OLT Innovator, Hirano Logistics
新しい輸送の形を提案します。

「プラスワンアルファ」
+1α 背高&ワイドな貨物は“α”で!



背高もワイドもシート掛け不要

大型セミトレーラー車 +1α は +1 (96 インチ ULD4 台搭載可) と比べて長さ・高さが拡大。トレーラーの側面が大きく開き、大型機械の荷役が容易にできます。現在、長距離路線を中心に活躍しています。

株式会社 平野ロジスティクス
Hirano Logistics Corporation

本 社 078-994-0069 岡 原 支 店 0176-35-3600 東京営業所 03-6382-7768
成田空港出張所 0476-32-2981 釧 路 支 店 0538-42-9480 中部支店 0569-38-7208
岡 崎 支 店 072-463-7455 関西空港営業所 072-456-8470 神戸営業所 078-965-0918
福岡営業所 092-586-8915 www.hirano-logistics.com

月刊 航空貨物専門誌

SPACE 2021年12月6日発行 第51巻第12号 通巻612号 (第1号増発行)
期4046年3月6日第3種郵便物認可 ISSN 0389-4800

SPACE

December 2021

12

No. 612

定価 1100 円 (税込)

© The Japan Press, Ltd.

コロナ
下で航空貨物の電子化は進んだか

50th
ANNIVERSARY

Logistics Now: 平野ロジスティクス / 新空調車“+1 COOL”が22年始動



SPACE 12月号
2021-12
発行所 株式会社平野ロジスティクス
社 東京都港区北山三丁目三番地
電話 東京(03) 6382-7768
〒106-0031
代 理 店
定 価 一 年 間 一 部 一 万 九 千 四 百 四 十 五 円 送 料 八 十 七 円
© The Japan Press, Ltd.



新空調車“+1 COOL”が22年始動

— マイナス 30℃まで対応、セキュリティも万全に

航空貨物の空港間OLT輸送(保税輸送)のリーディングカンパニーである平野ロジスティクスは、同社オリジナル空調仕様セミトレーラーの“+1 COOL”を開発した。22年1月から導入する予定で、近年、増加傾向にある空調輸送ニーズにさらに幅を広げた対応を行う。

オートコンベアでルーズ貨物に対応

今回導入される+1 COOLは、既存の+1に各種改良を加え、空調管理機能を追加したもの。

+1 COOLは、トレーラー部がオランダ・エッグ社製で、これに日本の最先端技術を組み合わせ、オランダと日本の共同開発による最新型オリジナル車両だ。

トレーラー庫内にはULDとルーズ貨物の搭載を可能にするオートコンベア、トレーラー前部には冷凍機メーカー・サーモキング製の冷凍ユニット“SLXi400”が装着され、側面には空調仕様を示す“COOL”のロゴマークが施されている。

この+1 COOLは、マイナス30℃までの冷凍・冷蔵保管が可能で、欧州の医薬物流品質機関から医薬品物流の品質認証であるGDP (Good Distribution Practice)にも適合する。

また、リアドアの施錠は暗証番号による電子ロック式で、遠隔操作にも対応するなど、セキュリティにも万全の

態勢をとっている。

平野ロジスティクスは、「顧客ニーズに合わせた輸送車を常に考える」という姿勢で、輸送機材を改良して効率化に挑戦し、今ある技術を集結して数多くの新型車を世に送り出してきたが、コロナ禍真っ只中の頃から、増加傾向にある医薬品輸送を含む空調温度管理輸送ニーズに対応する車両開発に注力している。

同社はすでに医薬品専用大型車として+7 COOLを開発・投入しているが、新たに+1 COOLがラインアップに加わることになる。

いまや航空各社は、医薬品/生鮮食品/冷凍食品など、温度管理が必要な貨物に対応した輸送サービスに力を入れていて、それらのサービスでは、輸送過程において徹底した温度管理が求められる。それゆえ、例えば成田から羽田などの近距離輸送においても、空調温度管理機能を完備した車両の使用が不可欠だ。

その点、+1 COOLは庫内でマイナス30℃までの冷凍・冷蔵保管ができるため、仮に医薬品を搭載した温度管理コンテナが壊れた場合や、コンテナの電源(充電)が切れた場合でも、大幅な温度逸脱を防ぐためのバックアップ的な位置付けとして空調温度管理輸送を使用するメリットは大きい。



ULD対応でマイナス30℃～プラス20℃で温度管理できる“+7 COOL”

+7 COOLは冷凍機メーカーであるサーモキング製の冷凍ユニット“SLXi200”をトレーラー前部に装着した、空調管理機能を搭載したモデル。

荷台部分は上段が96インチULD (1D) ×4基、下段が1D3コンテナ×5基を搭載可能で、上段下段ともにマイナス30℃～プラス20℃までの温度管理ができる。
+7 COOLは一度に大量のULDを輸

送できるメリットがある一方で、ルーズ貨物に対応できないというデメリットがある。

現在、主に成田→関空へULD単位の空調輸送を提供している一方、関空から成田へは特にローデッキ搭載の96インチULD輸送が少ないため、関空から中部を経由し、ULDを追加搭載して成田へ戻るといったルートで運行されている。



リアドア施錠は暗証番号による電子ロック式で、遠隔操作にも対応するなど万全なセキュリティ。



欧州の医薬物流品質機関からGDPに適合。サブライチーン全体で品質と安全を維持する。

+1 COOLのベースとなる+1は、96インチULD4台搭載のセミ・トレーラー車だが、+1 COOLはマイナス30℃に対応するため、壁面を厚くして断熱材を組み込んだ結果、88インチULD仕様となっている。88インチULDは4台搭載可能だ。旅客ベリ一便搭載のローデッキULD輸送のニーズには+1 COOLで対応する。

平野では前例のないトレーラー

「当社はこれまで、空港間で96インチULDを運ぶことをメインとしてきましたが、今回初めて96パレットが入らないトレーラーを作りました」と語るのは益子研一、取締役営業本部長。

実際、関空→成田の空港間輸送では、メインデッキは多いがローデッキに搭載する96パレットの輸送ニーズは多くないという。

益子取締役は「現在、関空からの貨物は、成田にルーズ貨物として輸送し、成田でビルドアップされて航空機に搭載するのが主流となっています。そのため、96インチULDが積みえない+1 COOLを成田から関空へ走らせても、関空からベリ一貨物の88インチULDとルーズ貨物を搭載して成田へ戻すことでメリットはあるだろう、という点と、特に先に開発した+7 COOLでは対応できないルー

ズ貨物需要を取り込むため、開発に至った」と語る。

庫内の空調効果を最大限に高めることで、メインの96インチULDが積みなくなる代わりに、ルーズ貨物やエンパイロテイナーなどの温度管理コンテナ(88インチ)を輸送することにフォーカスした、同社として前例のないトレーラーを作り上げたわけである。

最新の+1 COOLはオランダでの製造過程が終了し、ベルギー・ゼーブルージュ港で船積みされ、11月20日に横浜港に到着済み。現在、日本での機能整備や調整が行われており、その後、申請手続きなどを経て、22年1月から運行開始する予定だ。

益子取締役は、「ルーズ貨物がある場合は+1 COOL、ULDのみの場合は+7 COOLで一気に大量輸送と、お客様の荷姿によって、どちらの輸送ニーズにも対応できるように2タイプの空調車両体制とします」と語る。空調仕様車を2タイプ用意することで、航空会社からの空調貨物輸送の需要増加に対応していく。

このほか、空調温度管理需要への対応としては、関空をメインに成田にも導入している10トン温調車(Medica号)を増産して、計7台体制に強化するなど、平野ロジスティクスは時代の先端を行く空調温度管理輸送サービスのラインアップ強化に邁進し続けている。